

道徳の時間で活用する ～善悪の判断、自律、自由と責任～

下関市立豊東小学校 久保 理生

1 本場面におけるポイント

- 自由に対する考え方がどう変化していくか。
導入で、自分の自由に対する思いを書かせることで、変容を確かめさせる。
- 自由と責任という二つの関わりについて考えることができるか。
二つの関連を考えさせるヒントとして活用させる。

2 授業の実際

1 主題名（単元名・題材名） 本当の自由とは

2 ねらい

自由には、自分を律し、責任のある行動が必要であることを自覚する。

3 展開

(1) 導入 自分が今思う自由とは

教師：あなたが考える自由とはどのようなものですか。

A児：自分の考えたことが実行できる。

B児：人にじゃまされずにいろいろなことができる。

C児：人に迷惑かけずに好きなことができる。

□ 指導上の留意点等

「私たちの道徳」28ページの文章を読む前に、29ページに書くよう伝える。数人発表させてから書かせるようにした方が書くことに抵抗がある児童にとってはよい。

時間を決めて児童が書いた後、全員に発表させる。もし自分と同じ意見が出た場合は座らせるようにする。このときよく似ていても「〇〇さんと似ていますが…」と発表させる。



(2) 展開 自由についての考えを深める

教師：「今、書いた自由について、今日はさらに深く考えていきます。」

(ビデオ「うばわれた自由」：文部省作を視聴)

教師：「どんなことが心に残りましたか。」

A児：「ジェラルール王子は自分のことばかり考えていたから、ばちがあたった。」

B児：「自分の好き勝手なことばかりしていると、自由がなくなってしまう。」

C児：「ガリユーが言った、あなたのはわがまま勝手自由とはちがうという言葉が心に残



った。」

教師：「自由とわがままはちがうという意見が出たので、そのことについて31ページの資料を使って考えていこう。」

「31ページを読んで自由とわがままのちがいは何でしょうか、となりの人と話してみましょう。」

D児：「他の人に迷惑をかけるのは、自由ではなくわがままだと思う。」

教師：「自律と責任について32ページを読んで考えよう。」

□ 指導上の留意点等

「私たちの道徳」に、読み物資料として『うばわれた自由』が掲載されているが、理解をスムーズにするためにビデオを使った。

「私たちの道徳」31ページにある、福沢諭吉の「自由とわがままとの界は他人のさまたげをなすとなさざるとの間にあり」という記述に着目させる。

(3) 終末 自由だからこそ大切にしなければならないこと

教師：「今日見たビデオのように、自由がなくなってしまうためには、どうしたらいいでしょうか。自律や責任という言葉を使って書いてみましょう。」

A児：「みんなが無責任な行動をとると、世の中がでたらめになるから責任をもって行動しないとイケないと思う。」

B児：「みんなが自由になるためには、一人ひとりの責任が大切になる。」

C児：「自由は楽なことじゃなくて、自由になるには責任と努力が必要。」

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

自律・責任と自由の関わりを考えるのは児童にとってやや抵抗があると思われたので、『うばわれた自由』の資料を中心に考えさせるようにした。自由をうばわれたガリユー王子の立場を思い起こさせ、彼の失敗の原因が無責任な考えに起因していることを押さえてから書かせるようにした。

3 実践を振り返って

自由という言葉は、子どもたちにとって、なじみ深いようでありなじみがないように思う。自由ということを考える際、不自由な経験等を想起させてから考えられる方がよかったかもしれない。

また、自由だからできることについて考えさせることも必要だったと思う。

ビデオ資料を用いたことは、資料の内容を理解するにはとても効果的だった。次回の実践では、ビデオ資料と読み物資料を上手く併用できるようにしていきたい。

